

平成18年度
(第1期)

事業計画

平成18年4月

日本アルコール産業株式会社



はじめに

昭和57年10月、国から新エネルギー総合開発機構（当時）にアルコールの製造部門が移管されたことに伴い、同機構にアルコール事業本部が設置され、アルコール専売法の下でアルコールの製造業務を開始した。その後、「国の行政組織等の減量、効率化等に関する基本的計画」（平成11年4月27日閣議決定）を受けて平成13年4月にアルコール専売制度が廃止されたが、平成17年度末まではアルコール専売制度廃止に伴う激変緩和のための5年間の暫定期間が設けられ、その中で同機構アルコール事業本部は、アルコールの製造を行うとともに、一手購入販売を担ってきた。

暫定期間中の平成15年10月に同機構は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構に移行した。また、この計画は、平成18年4月を目途としたアルコール事業本部の株式会社化にも言及している。

そして、平成17年4月に成立した「日本アルコール産業株式会社法」に基づき、本年4月1日「日本アルコール産業株式会社（*J. alco*）」が発足し、将来の完全民営化に向けて第一歩を踏み出した。

今般の株式会社化は、アルコール専売制度廃止に伴うアルコール市場の完全自由化と同時であり、当社を取り巻く環境は、競合他社との完全な自由競争という非常に厳しい状況にある。しかしながら、当社は、一株式会社として適正な利益を確保することはもとより、食品工業分野をはじめ化学工業分野や医薬品分野など幅広い分野に使用される国民生活及び産業活動に不可欠な基礎物資であるアルコールの安定かつ円滑な供給を通じ、アルコール関連産業の発展に寄与するとともに、これまで培ってきた技術力と創造力によりアルコール関連事業の多角化を通して人々の暮らしに貢献していく所存である。

日本アルコール産業株式会社は、我が国アルコール産業の発展の中核となり、適正な競争環境を醸成し、工業用アルコールの安定的かつ低廉な提供に寄与するとともに、将来の完全民営化に向けて

- ◆ **ワールドクラスの工場経営を目指す会社**
- ◆ **お客様に安全で安心な商品を常に提供していく会社**
- ◆ **改革に向け常にチャレンジしていく社員の集う会社**
- ◆ **常に公明正大な経営を誇れる会社**

であることを誓う。

以上の認識に基づき、日本アルコール産業株式会社では以下に掲げる方針について、社員一同全力を挙げて取り組む。

- (1) カスタマーニーズを充足する製品を開発・提供する
- (2) アルコール製品を主軸の製品構成とする
- (3) 品質には妥協を許さない
- (4) 世界最高水準のアルコール製造プロセス・品質管理システムを構築し、維持・向上する
- (5) 常に企業価値の向上を図る
- (6) 能力や成果に応じた魅力ある処遇を行う
- (7) 企業倫理を遵守する

平成18年度の事業運営の基本方針

I. アルコール製造事業

1. 経営基盤の整備

(1) 販売製品

顧客ニーズを把握し、期待に応える製品を開発し販売する。販売する製品には、「妥協なき品質の追求」、「原料の遡及（原料由来、原産国）」、「必要な製品情報の提供」のコンセプトを掲げ、安定同位体比質量分析計を活用した原料ベースでのトレーサビリティの確立や基幹業務統合型システム（ERP）による製造工程及び流通過程でのトレーサビリティを確立し、製品の付加価値・差別化を図る。

(2) 販売拠点

安全・安心を最優先し顧客に満足してもらえる高品質のアルコールを長期的に効率的に安定供給するために、アルコールの販売における需要者への引渡場所については、鹿島、千葉、磐田及び出水アルコール工場のほか、効率性、利便性の観点から適切な拠点を確保する。

(3) 製品構成

製品構成は、次のとおりとする。

度数	品 種	製品特徴	製 品 名 (愛称)
99度	1 級	1 級	トレーサブル99 1 級
		サトウキビ	トレーサブル99 Qibix
		コーシヤ	トレーサブル99 コーシヤ
95度	特級	特級	トレーサブル95 特級
	1 級	1 級	トレーサブル95 1 級
		サトウキビ	トレーサブル95 Qibix
		コーシヤ	トレーサブル95 コーシヤ

(4) 品質管理

アルコールの用途は、その大半が飲食料工業分野であることにかんがみ、食品の衛生管理における安全性の確保を製造工程まで広げたシステム（HACCP方式）の考え方を取り入れ原料調達から出荷までのすべてのプロセスにおける品質管理を徹底するとともに、トレーサビリティの確保のためのロット管理システムを構築・運用する。

(5) 製造プロセス・品質管理システムの確立

全工場の品種別作業標準・技術標準を策定し、技術力の向上と均一化を図る。
また、製造工程やコスト状況の管理手法、設備管理手法を確立し維持・向上に取り組むとともに、IS09001の方針を遵守する。

(6) 人事制度

職務基準・業績評価などの基準を明確にし、適正な目標管理と公正な業績評価制度の実施により、社員間の健全な競争をもたらし、適材適所の人事制度を確立する。

(7) 企業倫理の遵守

すべての社員が経営理念と基本方針を理解し、企業倫理を遵守するため、明文化したマニュアルを作成し、コミュニケーションの徹底を図る。

(8) 原料調達

地球環境問題の観点から世界的に燃料アルコールを含むバイオマス燃料の需要が増加している中、工業用アルコールの原料である粗留アルコールを中長期契約方式とスポット契約方式を適切に併用し安定的に調達する。

(9) 事業運営の効率化と経費の削減

事業全般にわたり、徹底した効率化と経費の削減に努める。

(10) 新規顧客の開拓

工業用アルコールの啓蒙普及等のための広報を強化し、市場の拡大を図る。

2. カスタマーサービスの向上

カスタマーニーズを適確に捉え、それらを迅速に事業に反映させるスキームを構築する。

また、アルコールの販売受注システムや引渡の時間等を見直し、顧客の利便性の向上を図る。

3. 技術開発の取組み

発酵及び蒸留工程の省エネ・省力化のための技術開発を推進するとともに、アルコールに関する分析技術の向上を図る。

また、各工場においては蒸留技術標準を定着させ、コスト削減を図る。

4. 人材育成と組織の活性化

全社員参加の少人数グループによる業務改善活動を継続的に実施する。また、各種研修の計画的実施により更なる意識改革を図る。

また、コミュニケーションを重視し、常に改革・改善にチャレンジしていく社員集団を目指す。

5. 環境問題への取組み

ISO14001の適切な運用により環境負荷の軽減を常に意識し、CO₂排出量の削減、リサイクルの推進、燃料の転換、廃棄物の削減等に配慮した事業活動を展開する。

6. 誠実な企業イメージの定着

将来の株式売却も視野に入れ、当社に係る理解と親密度の浸透を進めるため、インターネットホームページ等においてIR情報はもとよりアルコール全般に関する広報・宣伝活動を積

極的に展開する。

7. アルコールの製造・販売に関する計画

製造・販売数量の見通しは16～18万KLを目指し、全国販売網を整備している販売事業者等との連携により、全国をカバーできる体制の下で製品を供給していく。

また、製造にあたっては、安全・安心を最優先にしつつ、品質管理には万全の注意を払い、カスタマーニーズを満足する製品を供給するとともに、食品衛生上の安全性の高い操業水準の維持、徹底した製造工程の合理化を図り製造コストを低減していく。

なお、平成18年度においては利益を確保できる体制を構築し、平成19年度以降においては、適正な利益の確保に努める。

II. アルコール製造事業以外の事業

保有する固定資産、人的資産及び知的資産を有効に活用し、新規事業展開の実施に向けた整備を進める。

なお、アルコール製造事業以外の事業については、アルコール製造事業を補完するものと位置付け、平成20年度には利益を確保できる事業展開を目指す。

1. 発酵副産物高付加価値化事業

アルコール発酵工程から生じる副産物の高付加価値化により、新製品を開発する。また、発酵技術を生かしてもろみ濃縮液を有効活用した新製品を開発する。

2. アルコール使用商品事業

アルコールに関するノウハウを活かし、アルコールを使用した商品の開発を推進する。